

7-10-4 キノコ類

1. 現況把握

(1) 調査概要

キノコ類に係る調査内容は、表 7-10-4.1 に示すとおりである。

表 7-10-4.1 キノコ類に係る調査内容

調査項目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等
キノコ類	任意観察法	対象事業実施区域及びその周辺 200m	2 季/年 (春・秋季)



キノコ類：任意観察法

(2) 調査地点

キノコ類に係る調査地点は、図 7-10-4.1 に示すとおりである。

(3) 調査時期

キノコ類に係る調査時期は、7-10-4.2 に示すとおりである。

表 7-10-4.2 地衣類に係る調査時期

調査項目	調査頻度	調査時期・実施日
キノコ類	2 季/年	春季：令和3年4月27～28日 秋季：令和3年10月14～15日

(4) 重要な種の状況

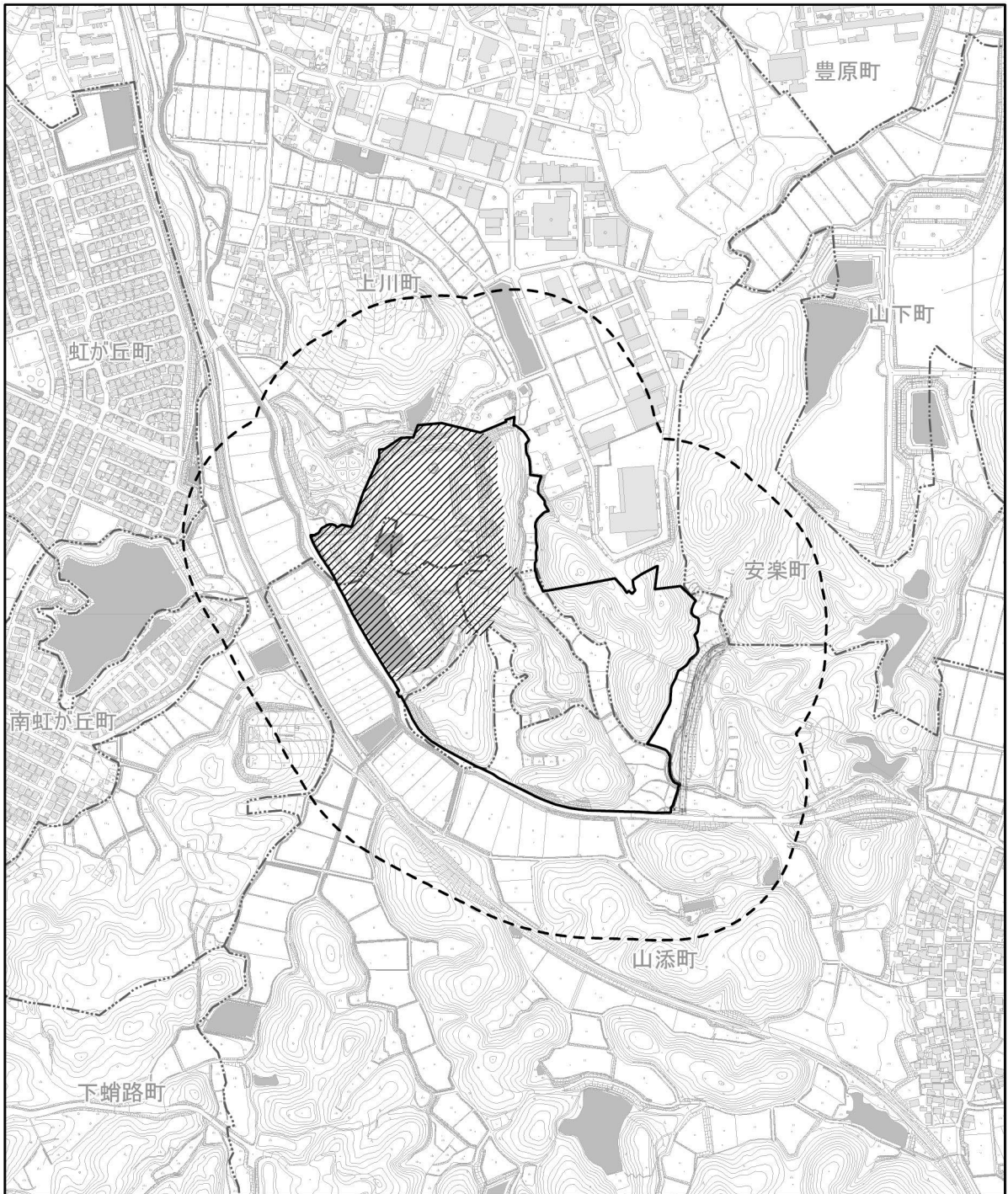
重要な種の選定基準は、「7-9-1 哺乳類」と同じとした。

(5) 注目すべき生育地

注目すべき生育地の選定基準は、「7-9-1 哺乳類」と同じとした。

(6) 外来種の状況

外来種の選定基準は、「7-9-1 哺乳類」と同じとした。




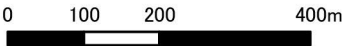
<p>凡例</p> <p>//// 現最終処分場区域</p> <p>▭ 対象事業実施区域</p> <p>--- 対象事業実施区域周辺200m</p> <p>----- 町界</p> <p>この地図は、松阪市提供の地形図データ及び「平成27年国勢調査(町丁・字等別境界データ)」(総務省)を使用し、株式会社日本技術開発が編集・加工したものである。</p>	<p>S = 1:10,000</p>  <p>0 100 200 400m</p> 
---	---

図 7-10-4.1 キノコ類調査地点図 (対象事業実施区域周辺 200m)

2. 調査結果

(1) キノコ類の生育状況

対象事業実施区域及びその周辺で確認されたキノコ類は、表 7-10-4. 4(1) (2)に示すように 2 門 15 目 46 科 111 種であった。このうち、重要な種にはソライロタケが該当する。外来種は確認されなかった。

対象地域は、広域的に見ると櫛田川左岸に広がる丘陵・農耕地域である。対象事業実施区域及びその周辺には、水田耕作地、公園・駐車場、造成地（現最終処分場）など日当たり良好な場所、山林の落葉広葉樹林（コナラ林）や竹林、スギ・ヒノキ植林など林床が薄く暗い湿潤な環境が見られる。

季節別の確認状況では、春季 47 種、秋季 91 種であり、春季は調査実施日前までしばらく晴天に恵まれたため、林床が乾燥気味であったが、タバコウロタケ目やタマチョレイタケ目の触感が硬めのキノコ類などが確認された。

生育状況をみると、水田耕作地や林縁部の草地にはキコガサタケ、ヒメシロフクロタケが、落葉広葉樹林（コナラ林）やスギ・ヒノキ植林内の倒木や立ち枯れ木にはヒロハチャヒラタケ、センベイタケ、ハナビラニカワタケなどが生育し、林床の腐植土にはハダイロガサ、クサウラベニタケ、ユキラッパタケなどが見られた。また、現最終処分場内の埋立地ではキコガサタケ、ヒメシロフウタケが、同処分場の林縁部や林内ではカワラタケ、キチチタケ、ミヤマチャウロコタケ、モミジウロコタケが生育し、これらの種は周辺部の山林でも比較的普通に見られた。

キノコ類の確認状況を表 7-10-4. 3 に示す。

表 7-10-4. 3 キノコ類の季節別、区域別確認状況

門名	目別	春季		秋季		対象事業実施区域内		対象事業実施区域外	
		科数	種類数	科数	種類数	科数	種類数	科数	種類数
子囊菌門	ビョウタケ目	1	1	2	2	2	2	2	2
	チャワンタケ目	2	2	1	1	1	1	1	1
	ポタンタケ目			2	2	1	1	1	1
	ヘタタケ目	1	1	1	1	1	1	1	1
	クロサイワイタケ目	1	2	1	2	1	2	1	2
担子菌門	ハラタケ目	5	5	16	35	14	28	14	21
	イグチ目			5	5	3	3	3	3
	ヒメツチグリ目			1	1	1	1	1	1
	スッポンタケ目			1	3	1	2	1	2
	キクラゲ目	1	4	1	1	1	2	1	3
	コウヤクタケ目	1	1	1	1	1	1	1	1
	タバコウロコタケ目	1	4	1	4	1	4	1	5
	タマチョレイタケ目	6	23	7	23	6	25	5	20
	ベニタケ目	2	4	3	8	3	6	3	6
	シロキクラゲ目			1	2	1	1	1	2
	合計	21	47	44	91	38	80	37	71

表 7-10-4. 4(1) キノコ類の確認種一覧表

No.	門名	目名	科名	種名	学名	調査時期		
						春季	秋季	
1	子囊菌門	ビョウタケ目	ヘソタケ科	フユノウスキサラタケ	<i>Chlorosplenium chlora</i>		●	
2			ビョウタケ科	ヒメクショウグサレキン	<i>Chlorociboria omnivirens</i>	●	●	
3		チャワンタケ目	ピロネマキン科	アラゲコベニチャワンタケ属の一種	<i>Scutellinia</i> sp.	●	●	
4			オオゴムタケ科	オオゴムタケ	<i>Galiella celebica</i>	●		
5		ボタンタケ目	ノムシタケ科	サナギタケ	<i>Cordyceps militaris</i> f. <i>militaris</i>		●	
6			ボタンタケ科	オオボタンタケ	<i>Hypocrea peltata</i>		●	
7		ヘタタケ目	ヘタタケ科	クロコバンタケ	<i>Camarops polysperma</i>	●	●	
8		クロサイワイタケ目	クロサイワイタケ科	クロコブタケ	<i>Hypoxylon truncatum</i>	●	●	
9				オオミコブタケ	<i>Kretzschmaria deusta</i>	●	●	
10	担子菌門	ハラタケ目	ハラタケ科	オニタケ	<i>Lepiota aspera</i>		●	
11				クリイロカラカサタケ	<i>Lepiota castanea</i>		●	
12			テングタケ科	カバイロツルタケ	<i>Amanita fulva</i>		●	
13				ニオイドクツルタケ	<i>Amanita oberwinklerana</i>		●	
14				カバイロコナテングタケ	<i>Amanita rufoferruginea</i>		●	
15				ツルタケダマシ	<i>Amanita spreata</i>		●	
16				ツルタケ	<i>Amanita vaginata</i> var. <i>vaginata</i>		●	
17				フクロツルタケ	<i>Amanita volvata</i>		●	
18				オキナタケ科	ツチナメコ	<i>Agrocybe erebia</i>		●
19			キコガサタケ		<i>Conocybe lactea</i>		●	
20			シロソウメンタケ科	ナギナタタケ	<i>Clavulinopsis fusiformis</i>		●	
21			イッポンシメジ科	クサウラベニタケ	<i>Entoloma rhodopolium</i>		●	
22				★ソライロタケ	<i>Entoloma virescens</i>		●	
23			ヒドナンギウム科	カレバキツネタケ	<i>Laccaria vinaceoavellanea</i>		●	
24			ヌメリガサ科	アカヤマタケ	<i>Hygrocybe conica</i>		●	
25				コベニヤマタケ	<i>Hygrocybe imazekii</i>		●	
26				ハダイロガサ	<i>Hygrocybe pratensis</i> var. <i>pratensis</i>		●	
27				オオヒメノカサ近縁種	<i>Hygrocybe</i> sp.		●	
28				アセタケ科	マルミノチャヒラタケ	<i>Crepidotus appianatus</i>		●
29			ヒロハチャヒラタケ		<i>Crepidotus malachius</i>		●	
30			ヒメスキタケ		<i>Phaeomarasmius erinaceellus</i>	●		
31			ホウライタケ科	ヒロヒダタケ	<i>Megacollybia clitocyboides</i>		●	
32			クヌギタケ科	サクラタケ	<i>Mycena pura</i> var. <i>pura</i>		●	
33			タマバリタケ科	ビロードツエタケ	<i>Xerula pudens</i>		●	
34			ヒラタケ科	ヒラタケ	<i>Pleurotus ostreatus</i>	●		
35				ウスヒラタケ	<i>Pleurotus pulmonarius</i>		●	
36				ヒメスキタケ	<i>Pleurotus reniformis</i>		●	
37			ウラボニガサ科	ウラボニガサ	<i>Pluteus atricapillus</i>		●	
38				ヒメシロフクロタケ	<i>Volvopluteus earlei</i>		●	
39			イタチタケ科	イヌセンボンタケ	<i>Coprinellus disseminatus</i>		●	
40				イタチタケ	<i>Psathyrella candolliana</i>		●	
41			スエヒロタケ科	スエヒロタケ	<i>Schizophyllum commune</i>	●		
42			モエギタケ科	チャツムタケ	<i>Gymnopilus liquiritiae</i>		●	
43				ニガクリタケ	<i>Hypholoma fasciculare</i>		●	
44				ヌメリスキタケモドキ	<i>Pholiota aurivellus</i>	●		
45			キシメジ科	ユキラッパタケ	<i>Clitocybe trogioides</i> var. <i>odorifera</i>		●	
46				ダイダイガサ	<i>Cyptotrama asprata</i>		●	
47				ヒメカバイロタケモドキ	<i>Omphalia campanella</i> var. <i>myriadea</i>		●	
48				ヒナノヒガサ	<i>Rickenella fibula</i>	●		
49				サマツモドキ	<i>Tricholomopsis rutilans</i>		●	
50			イグチ目	イグチ科	ホオベニシロアシイグチ	<i>Tylopilus valens</i>		●
51				クチベニタケ科	クチベニタケ	<i>Calostoma japonicum</i>		●
52				ジブロキスチス科	ツチグリ	<i>Astraeus hygrometricus</i>		●
53				ヒダハタケ科	ヤブニワタケ	<i>Paxillus atrotomentosus</i> var. <i>bambusinus</i>		●
54				ニセシヨウロ科	ニセシヨウロ	<i>Scleroderma citrinum</i>		●
55			ヒメツチグリ目	ヒメツチグリ科	シロツチガキ	<i>Geastrum sessile</i>		●
56			スッポンタケ目	スッポンタケ科	シラタマタケ	<i>Kobayasia nipponica</i>		●
57					コイヌノエフデ	<i>Mutinus borneensis</i> f. <i>borneensis</i>		●
58					スッポンタケ	<i>Phallus impudicus</i>		●
59			キクラゲ目	キクラゲ科	アラゲキクラゲ	<i>Auricularia polytricha</i>	●	●
60					ヒメキクラゲ	<i>Exidia glandulosa</i>	●	
61					タマキクラゲ	<i>Exidia uvapassa</i>	●	
62					オロシタケ	<i>Heterochaete delicata</i>	●	

表 7-10-4.4(2) キノコ類の確認種リスト

No.	門名	目名	科名	種名	学名	調査時期			
						春季	秋季		
63	担子菌門	コウヤクタケ目	コウヤクタケ科	ケシウロコタケ	<i>Punctularia strigosozonata</i>	●	●		
64				タバコウロコタケ目	タバコウロコタケ科	ウズタケ	<i>Coltricia montagnei</i>	●	●
65						アカウロコタケ	<i>Hymenochaete mougeotii</i>	●	
66						カワウソタケ	<i>Inonotus mikadoi</i>		●
67						ネンドタケ	<i>Phellinus gilvus</i>	●	●
68		ネンドタケモドキ	<i>Phellinus setifer</i>			●	●		
69		タマチョレイタケ目	ツガサルノシカケ科			ホウロコタケ	<i>Daedalea dickinsii</i>	●	●
70				マンネンタケ科	コフキサルノシカケ	<i>Ganoderma applanatum</i>	●	●	
71			マンネンタケ		<i>Ganoderma lucidum</i>	●	●		
72			アカゾメタケ科		ヤケイロタケ	<i>Bjerkandera adusta</i>	●	●	
73			トンビマイタケ科	サガリハタケ	<i>Radulodon copelandii</i>		●		
74	シワタケ科		エビウラタケ	<i>Gloeoporus dichrous</i>	●				
75			ニセニクハリタケ	<i>Steccherinum murashkinskyi</i>		●			
76			ハナウロコタケ	<i>Stereopsis burtiana</i>		●			
77	マクカワタケ科		シクイタケ	<i>Antrodiella gypsea</i>	●	●			
78			ニクウスバタケ	<i>Antrodiella zonata</i>	●	●			
79			クシノハシワタケ	<i>Lopharia cinerascens</i>		●			
80			カミウロコタケ	<i>Porostereum crassum</i>	●				
81			タマチョレイタケ科	ホウネンタケ	<i>Abundisporus pubertatis</i>	●	●		
82	センベイタケ			<i>Coriopsis strumosa</i>		●			
83	エゴノキタケ			<i>Daedaleopsis styracina</i>	●	●			
84	チャカイガラタケ	<i>Daedaleopsis tricolor</i>		●					
85	カイガラタケ	<i>Lenzites betulinus</i>		●					
86	ウチワタケ	<i>Microporus affinis</i>		●	●				
87	ブドウタケ	<i>Nigroporus vinosus</i>			●				
88	ハチノスタケ	<i>Polyporus alveolaris</i>		●					
89	アミスギタケ	<i>Polyporus arcularius</i>		●					
90	ヌルデタケ	<i>Porodiscus orientalis</i>		●					
91	ヒイロタケ	<i>Pycnoporus sanguineus</i>		●	●				
92	ヒメカタパンタケ	<i>Skeletocutis nivea</i>		●					
93	ミノタケ	<i>Trametes cervina</i>			●				
94	チリメンタケ	<i>Trametes elegans</i>			●				
95	アラゲカワラタケ	<i>Trametes hirsuta</i> f. <i>hirsuta</i>		●					
96	クジラタケ	<i>Trametes lactinea</i>	●	●					
97	カワラタケ	<i>Trametes versicolor</i>	●	●					
98	ハカワラタケ	<i>Trichaptum bifforme</i>	●	●					
99	ウスバシハイタケ	<i>Trichaptum fuscoviolaceum</i>	●	●					
100		オシロイタケ	<i>Tyromyces chioneus</i>		●				
101	ベニタケ目	マツカサタケ科	イタチナミハタケ	<i>Lentinellus ursinus</i>	●	●			
102			ベニタケ科	キチチタケ	<i>Lactarius chrysorrheus</i>		●		
103		ヒビワレシロハツ		<i>Russula alboareolata</i>		●			
104		ウコンハツ		<i>Russula flavida</i>		●			
105		キチャハツ		<i>Russula sororia</i>		●			
106		キウロコタケ科	ニクコウヤクタケ	<i>Acanthophysium mirabile</i>	●				
107			ミヤマチャウロコタケ	<i>Stereum ochraceoflavum</i>		●			
108			チャウロコタケ	<i>Stereum ostrea</i>	●	●			
109			モミジウロコタケ	<i>Xylobolus spectabilis</i>	●	●			
110		シロキクラゲ目	シロキクラゲ科	シロキクラゲ	<i>Tremella fuciformis</i> f. <i>fuciformis</i>		●		
111	ハナピラニカワタケ			<i>Tremella foliacea</i>		●			

確認種数: 2門15目46科111種

47種 91種

注1 ●: 確認 空白: 未確認 ★: 重要な種

注2 種名及び配列は「日本産菌類集覧」(勝本謙, 平成22年)に準拠した。

(2) 重要な種及び注目すべき生育地

重要な種にはソライロタケが該当し、2箇所計5個体が確認され、生育場所はいずれも対象事業実施区域外の竹林であった。また、注目すべき生育地は確認されなかった。

重要な種の確認位置を図7-10-4.2に、確認状況を表7-10-4.5～表7-10-4.8に示す。

表 7-10-4.5 キノコ類の重要な種の選定結果

No.	科名	種名	重要な種の選定結果				
			①	②	③	④	⑤
1	イッポンシメジ科	ソライロタケ				絶滅危惧Ⅱ類	
確認種数: 1科1種			-	-	-	-	-

注1 種名及び配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト令和3年度版」(国土交通省, 令和3年)に準拠した。

注2 重要な種の選定基準

- ① 「文化財保護法」(昭和25年5月30日、法律第214号)
 「三重県文化財保護条例」(昭和32年12月28日、条例第72号)
 「松阪市文化財保護条例」(平成17年1月1日、条例第256号)
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年6月5日、法律第75号)
- ③ 「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」(令和2年3月27日改訂、環境省)
- ④ 「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～(2015年改訂版)」
 (平成27年3月、三重県農林水産部みどり共生推進課)
 絶滅危惧Ⅱ類: 絶滅の危険が増大している種
- ⑤ 「三重県自然環境保全条例」(平成15年3月17日、条例第2号)

表 7-10-4.6 キノコ類の重要な種の確認状況

No.	科名	種名	調査時期		調査地区	
			春季	秋季	対象事業 実施区域内	対象事業 実施区域外
1	イッポンシメジ科	ソライロタケ		5		5
確認個体数				5		5

注 数字: 確認個体数 空白: 未確認

表 7-10-4.7 重要な種の確認状況

No.	確認時期	確認場所	確認状況
1-1	秋季	外	対象事業実施区域外南東側の竹林で2個体を確認。
1-2	秋季	外	対象事業実施区域外東側の竹林で3個体を確認。

注 内: 対象事業実施区域内 外: 対象事業実施区域外

表 7-10-4.8 重要な種の生育個体と主要な生育環境

	<p>環境保全の観点から、重要種の確認位置は表示しない。</p>
ソライロタケ	主な確認環境

(3) 外来種の確認状況

外来生物法及び外来種リストに該当する種は確認されなかった。

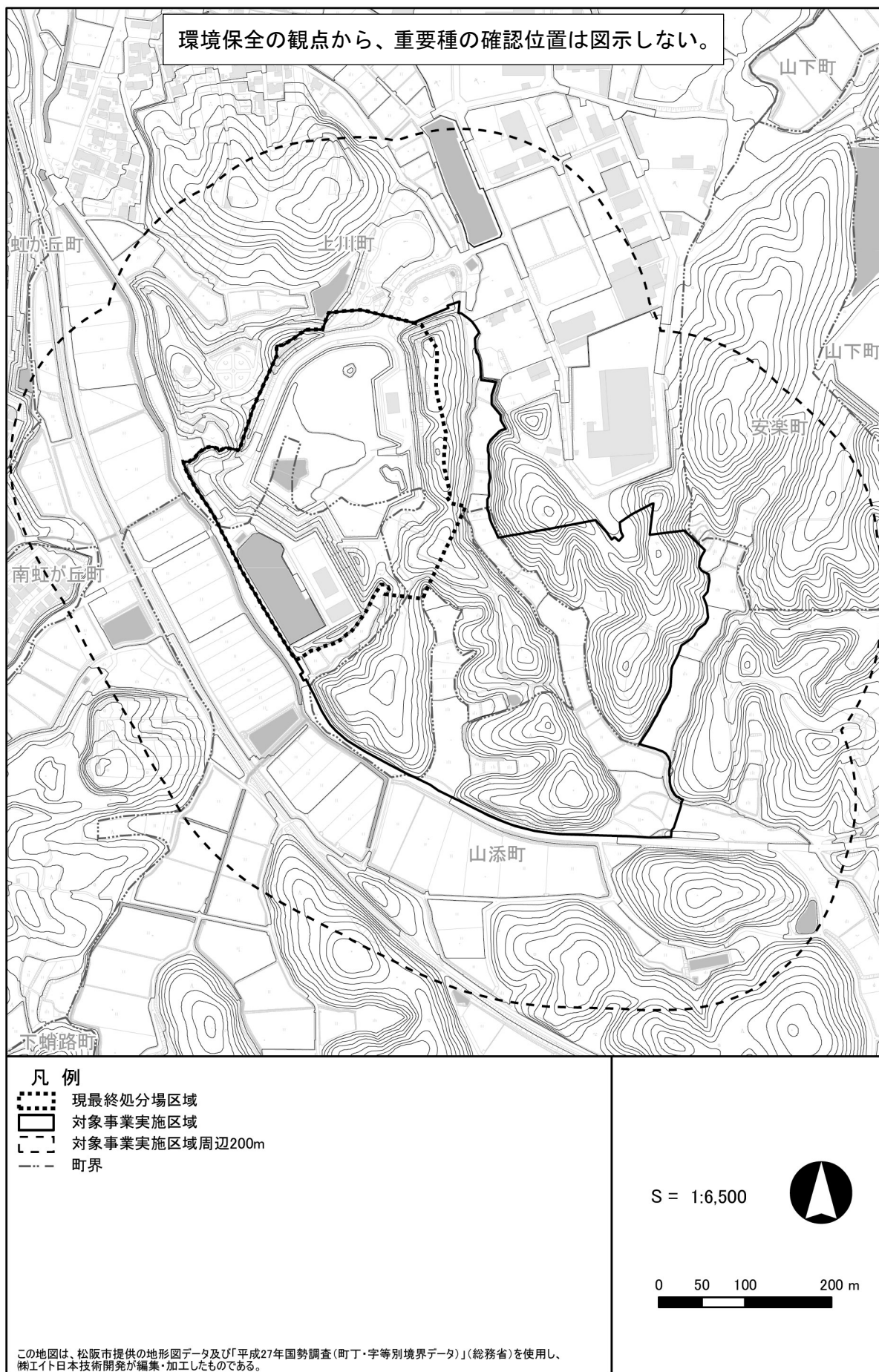


図 7-10-4.2 キノコ類の重要な種確認位置図

3. 予測・環境保全措置及び評価

キノコ類に係る予測概要は表 7-10-4.9 に示すとおりである。

表 7-10-4.9 キノコ類に係る予測手法

影響要因	予測項目	予測事項	予測方法	予測地域	予測対象時期等
工事の実施	キノコ類相及びそれらの生育環境	工事の実施による影響	予測対象種の生育環境や生育地と事業計画を重ね合わせ、その改変程度を整理し、予測対象種の生育に及ぼす影響の程度を事例の引用若しくは解析により、定性的に予測	調査地域と同様の地域	工事による影響が最大となる時期
土地又は工作物の存在及び供用	重要な種及び注目すべき生育地	土地又は工作物の存在及び供用による影響			事業活動が定常状態となる時期

(1) 予測内容

予測項目は、注目すべき生育地は確認されなかったことから、以下の項目とした。

- キノコ類（キノコ類相）及びそれらの生育環境への影響
- 重要な種への影響

(2) 予測対象時期

予測対象時期は、工事の実施は工事による影響が最大となる時期とし、土地又は工作物の存在及び供用は事業活動が定常状態となる時期とした。

(3) 予測地域

現地調査の範囲と同様に対象事業実施区域及びその周辺約 200m の範囲とした。

(4) 予測方法

予測方法・内容は、表 7-10-4.10 に示すとおりとした。

表 7-10-4.10 予測方法・内容

時 期	予測方法・内容
工事の実施	① 樹木の伐採・処理、建設機械による土地造成による影響 樹木伐採や建設機械の稼働による土地造成により、谷津田や山林の一部が消失する。キノコ類（キノコ類相）に与える直接的な影響の度合いについて、土地利用計画との重ね合わせにより、その改変の程度などについて定性的に予測した。
土地又は工作物の存在及び供用	① 工作物（処分用地、調整池）の存在による影響 処分場となる造成地や調整池のような工作物の存在による植生及び土地利用の出現（供用）について、キノコ類相に与える直接的な影響の度合いについて、土地利用計画との重ね合わせにより、その改変の程度などについて定性的に予測した。

(5) 予測結果

① キノコ類及びそれらの生育環境への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

対象事業実施区域の植生などの改変状況を見ると、山林（コナラ群落、モウソウチク植林、スギ・ヒノキ植林）は 10.07ha から 5.45ha に減少し、谷津田の湿地化した水田跡地は 2.83ha から 0.56ha に減少する。生育環境の山林は約半分が改変され、樹林内の生育個体の一部は、工事に伴う樹木の伐採や建設機械による土地造成の影響を受けるものと考えられる。山林面積は減少するものの各植物群落は残存し、遷移の過程で好適な生育環境となる倒木も発生するものと考えられる。また、現況の生育状況から周辺の現最終処分場予定及びその周辺や公園・駐車場周辺の生育環境は現状のままであり、工事の実施によるキノコ類相への影響は小さいものと考えられる。

供用時には、山林の一部は残置森林として残存し、コナラ群落 (3.46ha)、モウソウチク林 (1.29ha)、スギ・ヒノキ植林 (0.7ha) がパッチ状に分布する。周辺の水田耕作地、公園・駐車場、現最終処分場の改変地などの生育環境は現状のままであり、供用後に処分用地や調整池、道路など出現するが、キノコ類とその生育環境への影響は小さいものと考えられる。

② 重要な種への影響【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

重要な種の生育地と事業計画を重ね合わせにより、各個体の事業実施による影響の有無・程度について予測した。重要な種の生育地と事業計画を重ね合わせ図 7-10-4.3 に示すとともに、予測結果を表 7-10-4.11 に示す。

ア. ソライロタケ

【一般生態など】

県内では、亀山市、津市、松阪市、伊賀市で記録がある。広葉樹林内の地上（林床）に単生または群生する小型のきのこで、子実体全体が空色を呈する。傘は直径 2～3 cm。

参考：「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～（2015 年改訂版）」（平成 27 年 3 月、三重県農林水産部みどり共生推進課）

【工事の実施、土地又は工作物の存在及び供用】

生育地（2箇所）は、対象事業実施区域外の竹林である。工事着工に伴う樹木の伐採・処理及び建設機械による土地造成、工作物、工事中用道路などの建設による生育地及び生育個体への影響はないものと考えられる。

供用後も生育地は現状のままであり、処分用地、調整池などの工作物の存在による影響はないものと考えられる。

表 7-10-4.11 キノコ類の重要な種の予測結果概要

No.	確認時期	確認場所	確認状況	予測結果概要
1-1	秋季	外	対象事業実施区域外南東側の竹林で2個体を確認。	工事中：影響なし 供用後：影響なし
1-2	秋季	外	対象事業実施区域外東側の竹林で3個体を確認。	

注 内：対象事業実施区域内 外：対象事業実施区域外

(6) 環境保全措置

以下に示す環境保全措置を実施する。

表 7-10.4.12 キノコ類に係る環境保全措置①の検討結果

影響要因	工事の実施
環境保全措置	造成法面、造成緑地の地域性種苗（郷土樹種）による早期緑化を図り、周辺環境と調和した緑地環境の形成を図る。
環境保全措置の効果	植栽による周辺環境（山林）と調和した樹林の再生やマント群落を形成することにより、キノコ類の生育環境を形成できる。
検討結果（不確実性）	植栽による緑化が生育環境を形成できることから実施する。

(7) 評価結果

保全エリアとして谷津田の確保、残林森林内に多様な植物群落を保全する。また、環境保全措置として、造成法面及び造成緑地の早期緑化を図りキノコ類の生育環境を形成する。よって、キノコ類の生育環境への影響は、事業者の実施可能な範囲で、回避又は低減が図られるものと評価される。

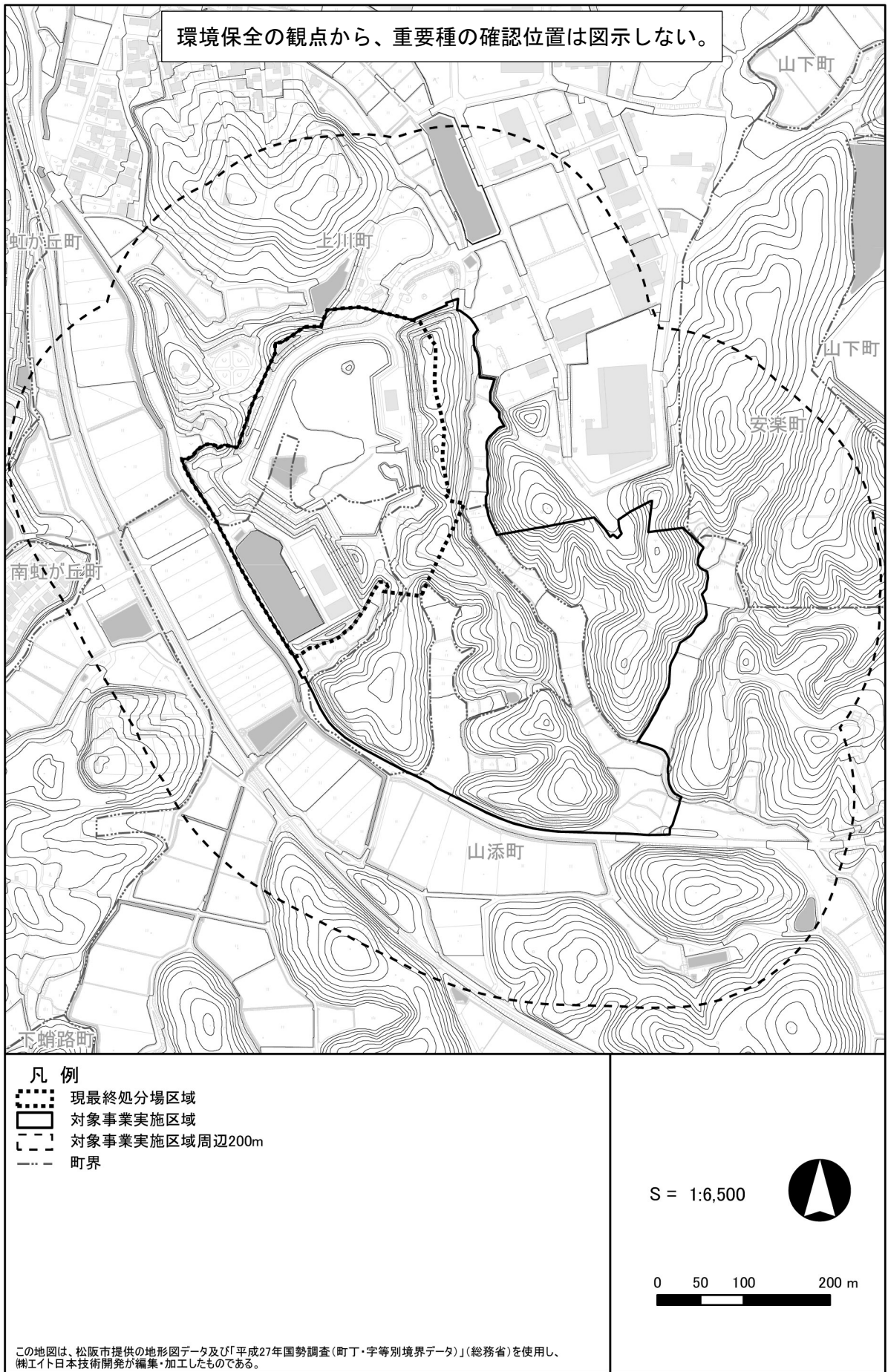


図 7-10-4.3 キノコ類の重要な種と事業計画との重ね合わせ図

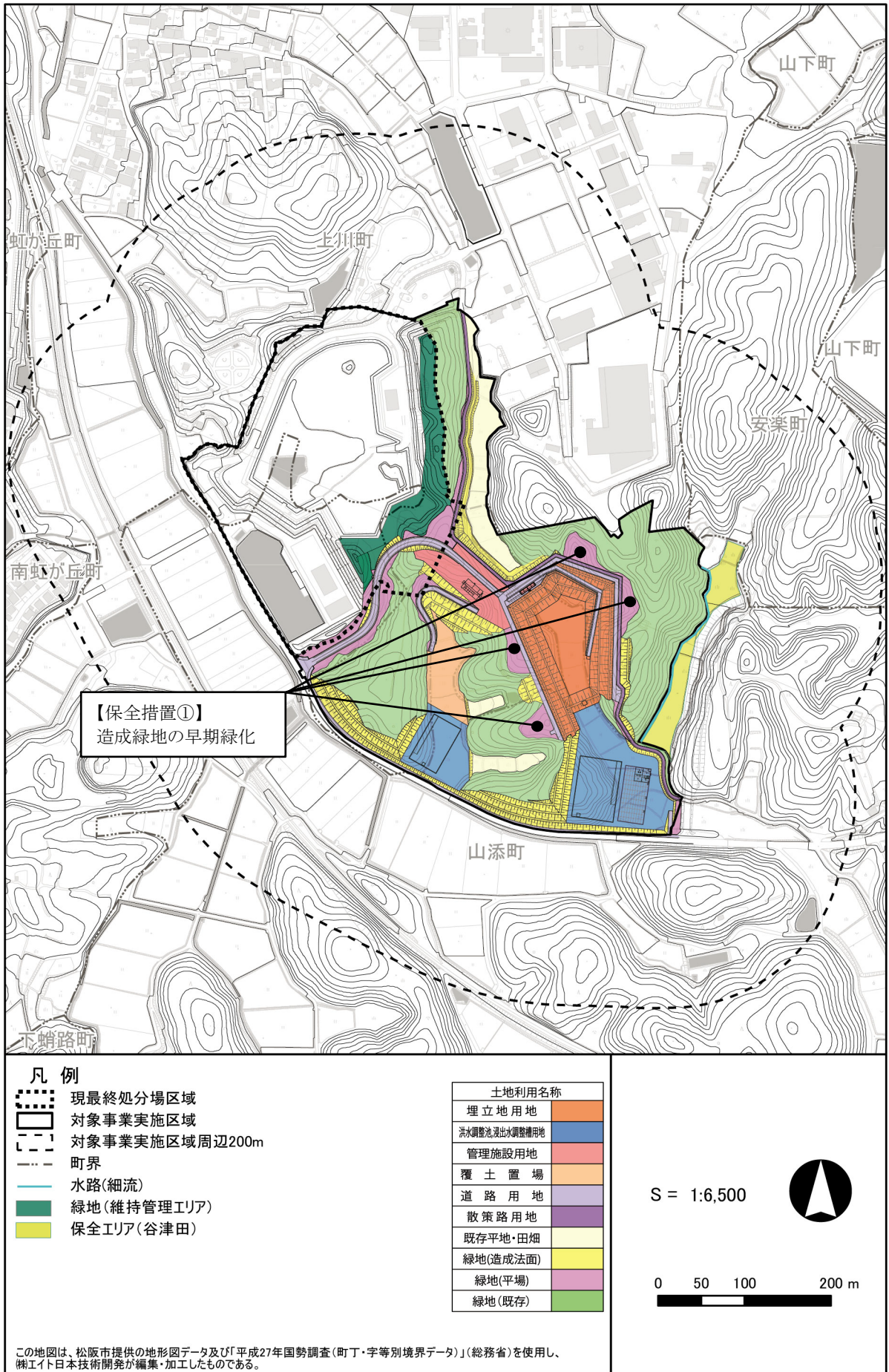


図 7-10-4.4 キノコ類に係る環境保全措置の概要図